

令和 3 年 8 月 20 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03007

研究課題名(和文) 児童の英語文字認識過程の解明-掲示物が児童の英語の学びに与える影響

研究課題名(英文) The Influence of English School Room Signs on Japanese Elementary School Students' English Word Recognition

研究代表者

巽 徹 (TATSUMI, TORU)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：10452161

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：4年間で延べ4,700名余りの小学校5,6年生の児童を対象に学校内の英語掲示物の表記や授業内で文字が示される単語を児童がどのように認識しているのかを調査した。その結果、「単語の意味」に注目して判断する児童と、「単語の見た目や形」に注目して判断する児童とが存在することが分かった。認識の仕方の違いを生む要因は、各児童の学校内外における「総英語学習時間」の違いによることが明らかになった。「総英語学習時間」が200時間～220時間に達する児童では、8割以上が意味に注目して判断しているのに対して、200時間に満たない児童では、意味に着目して判断する児童も8割には達していないことが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校学習指導要領(平成29年告示)では、小学校5,6年生の外国語科で英語を「読むこと」が学習する領域の一つに新たに位置付けられた。本研究から明らかのように、児童が基本的な英語単語の意味に注目し理解に至るには、英語学習総時間が概ね200時間程度必要であると考えられる。現行の教育課程では小学校3～6年生までに合わせて210時間の授業を標準の授業数とされており、「読むこと」においては学習を急ぎ過ぎず丁寧に指導すること、また、評価においても学習過程を重視し総合的な評価を急ぎ過ぎない教育実践が重要であることが示唆される。

研究成果の概要(英文)：For four years research period, we collected more than 4,700 elementary school pupils' data to find out how Japanese elementary school pupils recognize the English words, especially the basic words which the pupils feel familiar with, for example, the name of the months and the days of the week. The results revealed that there are two recognition types when they encounter English words: one is focusing on the meaning of the words and the other is focusing on the form of the words. The pupils who have been studying English more than 200 hours in total tend to use a meaning-focused strategy, on the other hand, those who have been studying it for less than 200 hours tend to take a form-focused way (focusing on individual letters or word features like a long or a short word). Thus, we concluded that the total amount of English learning time could be one of the important factors for Japanese elementary pupils to recognize the written basic English words.

研究分野：英語教育学

キーワード：小学校英語教育 読むこと 文字認識 英語文字指導 学習時間

1. 研究開始当初の背景

小学校学習指導要領(平成29年告示)では、小学校高学年における英語の教科化、小学校中学年からの外国語活動開始が示された。それに伴い、これまで小学校では扱ってこなかった英語を「読むこと」「書くこと」も小学校5・6年生の学習の内容に含まれることになった。英語の文字を扱う学習が導入されるにあたり、小学校5・6年生の児童が英語の文字認識をどのように行っているのか実態を把握し、英語を「読むこと」「書くこと」に抵抗なく取り組めるような指導や評価の在り方が求められていた。

2. 研究の目的

これまでの研究で、小学生は英語の文字や単語の認識において、単語の長さや共通の文字の有無など主に「英語の文字の形や見た目」に注目して認識する児童と、「英語の単語の意味」に注目して認識する児童が存在することが分かった。本研究では、これらの英語標記に対する認識方法の違いを生むのは、児童の学年の違いによるものか、英語学習に対する意欲などの情意面の違いによるものか、あるいは、そのほかの要因によるものなのかを明らかにしようとした。

3. 研究の方法

岐阜県、愛知県の公立小学校の協力を得て、小学校5・6年生を対象に「英語クイズ」を実施した。「英語クイズ」では、「文字で表記された英語の単語を見て、仲間外れを選ぶ」設問を設定し解答選択の理由も分析した。この設問は、児童が日頃から音声で十分に慣れ親しんでいる「月の名前、曜日の名前」などの基本的な単語の英語表記を見て、その発音を想起し意味の理解に至れるかを測ることを目的とした設問であった。合わせて、児童の英語学習への意欲や学校内外での総英語学習時間についても調査し分析を行った。

以下の役割分担により研究を遂行した。(1)研究代表者：巽 徹(岐阜大学・教育学部)、(2)研究協力者1：田中裕実(静岡大学(非))、研究協力者2：尾関朝香(岐阜県可児市立可児東中学校教諭)、研究協力者3：地口紗瑛(岐阜県各務原市立小学校教諭)、研究協力者4：鈴木優太(愛知県岡崎市立中学校教諭)、研究協力者5：岩狭千沙(愛知県清須市立中学校教諭)

4. 研究成果

2017年度から2020年度までの4年間で、延べ12校、4,700名余りの小学校5,6年生の児童を対象に学校内の英語掲示物の表記や授業内で文字が示された英単語を児童がどのように認識しているのかを調査した。その結果、「英語の単語の意味」に注目して判断しようとする児童と、単語の長さや文字の太さの違い、共通の文字の有無(語尾のy)など、「英単語の見た目や形」に注目して判断する児童とが存在することが再確認された。さらに、認識の仕方の違いを生む要因は、学年の違いや英語学習への興味・関心の差ではなく、これまで各児童が学校内外において英語を学習した「総英語学習時間」の違いによることが明らかになった。つまり、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な英単語であっても、文字を見てその発音や意味を想起できるようになるには、児童の「総英語学習時間」がある一定時間に達していることが認識を可能にする要因の一つであることが明らかになった。具体的には「総英語学習時間」が200時間~220時間に達する児童では、8割以上が意味を理解し意味に注目して判断しているのに対して、200時間に満たない児童では、200時間以上の児童に比べて「英単語の見た目や形」の特徴を優先させて判断している児童が多く、意味に着目して判断する児童も8割には達していないことが分かった。

これらのことから、英語を「読むこと」を含む小学校の教育課程において「外国語活動」「外国語科」に合計210時間が標準的な授業数として設定されていることの妥当性が支持されることがわかる。しかし、同時に、英語で表記された単語や文などの認識を求める「読むこと」の学

習では、扱う語彙については音声で十分慣れ親しんだものに限定するとともに、学習を急ぎ過ぎず丁寧な指導を行うことが求められる。また、評価においても学習過程を重視し総括的な評価を急ぎ過ぎない教育実践が重要であることが示唆される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山口美穂・巽 徹	4. 巻 21
2. 論文標題 Small Talk を実践した児童の発話パフォーマンスの変化と情意の関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 38-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巽 徹	4. 巻 14
2. 論文標題 「新学習指導要領を踏まえた「読むこと」の指導(2) 長文読解授業づくりのポイント」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「教室の窓」中部版	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巽 徹	4. 巻 13
2. 論文標題 「新学習指導要領を踏まえた「読むこと」の指導 長文読解授業づくりのポイント」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「教室の窓」中部版	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口美穂・巽 徹	4. 巻 20
2. 論文標題 「Small Talk の継続的な実施による児童生徒の発話パフォーマンスの変化」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巽 徹・加藤司・望月鮎佳	4. 巻 20
2. 論文標題 「小学校英語教育における絵本教材開発に関する研究－美術教育と英語教育による絵本教材開発－」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告（教育実践研究・教師教育研究）	6. 最初と最後の頁 129-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巽 徹	4. 巻 vol.5
2. 論文標題 既習表現を繰り返し使いながら定着を図る、高学年の「Small Talk(スモール・トーク)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 英語の窓(東京書籍 英語)	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口友崇、巽 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 プレリーディング活動が英文の内容理解に与える影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第48回中部地区英語教育学会静岡大会要項	6. 最初と最後の頁 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地口紗瑛、巽 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 児童の英語文字認識に影響を与える要因に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第48回中部地区英語教育学会静岡大会要項	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巽 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 児童の英語文字(単語)認識に関する事例研究 - 「読むこと」の評価のタイミングに関する一考察 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会(JASTEC)第40回全国大会資料集	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巽 徹、岡田真理子、ジャクソン・リー	4. 巻 65巻2号
2. 論文標題 小学生の英語学習における文字認識に関する研究 英語の掲示物が児童の学びに与える影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巽 徹、武部八重子	4. 巻 25巻
2. 論文標題 小学校英語(開始)早期化、教科化の見方・考え方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『授業実践フォーラム』	6. 最初と最後の頁 112-123
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 新美德康・巽 徹
2. 発表標題 「ことばの学び方」を学ぶ振り返りと教師の指導観 - 児童に主体的な学びを促す外国語授業を事例として -
3. 学会等名 日本児童英語教育学会(JASTEC)第40回秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 巽 徹・長尾友葉
2. 発表標題 「英語絵本の読み聞かせが児童の英語学習に影響を与える影響 - 語彙習得と情意面を中心に」
3. 学会等名 第49回中部地区英語教育学会石川大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 巽 徹・鈴木優太
2. 発表標題 「児童の英単語認識に影響を与える要因に関する研究」
3. 学会等名 第49回中部地区英語教育学会石川大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 巽 徹
2. 発表標題 「児童の英語文字（単語）認識に関する事例研究 - 「読むこと」の評価のタイミングに関する一考察 - 」
3. 学会等名 日本児童英語教育学会(JASTEC)第40回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口友崇、巽 徹
2. 発表標題 プレリーディング活動が英文の内容理解に与える影響
3. 学会等名 中部地区英語教育学会静岡大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 地口紗瑛、巽 徹
2. 発表標題 児童の英語文字認識に影響を与える要因に関する研究
3. 学会等名 中部地区英語教育学会静岡大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 巽 徹
2. 発表標題 児童の英語文字（単語）認識に関する事例研究 - 「読むこと」の評価のタイミングに関する一考察 -
3. 学会等名 日本児童英語教育学会(JASTEC)第40回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 巽 徹、尾関朝香
2. 発表標題 児童の英語文字認識に影響を与える要因に関する一考察
3. 学会等名 中部地区英語教育学会第47回長野大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 小学校英語教育学会20周年記念誌編集委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 184
3. 書名 小学校英語教育ハンドブック 理論と実践	

1. 著者名 巽 徹、泉 恵美子、小泉 仁、築道 和明、大城 賢、酒井 英樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 180
3. 書名 すぐれた小学校英語授業	

1. 著者名 巽 徹、池田勝久、泉恵美子、大城賢、加藤拓由、田縁真弓、東仁美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 162
3. 書名 「小学校英語『5領域』評価事例集」	

1. 著者名 中村典生、鈴木渉、巽 徹、林 裕子、矢野淳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 303
3. 書名 コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------